認知症の合併が急性期医療のコストに与える影響
－看護ケアの視点からの検討－

内田 智久[1)]　小林 真里子[1)]　清水 みどり[2)]　髙橋 陽子[2)]　美原 盤[3)]

1)脳血管研究所美原記念病院 医療情報室

2)脳血管研究所美原記念病院 看護部

3)脳血管研究所美原記念病院 院長

【目的】認知症患者の増大が想定されているが、認知症の合併が急性期医療のコストに与える影響についての報告は少ない。今回、看護ケアの視点から検討した。

【取り組み】急性期脳梗塞患者を対象に、認知症の程度に応じて入院 10 日目までの看護師の直接ケア時間、患者収支、レセプト区分別の算定点数、看護師のカルテ記載量を調査した。認知症が重度である程直接ケア時間が長く、日常生活援助や見守りに時間をかけていた。患者別の収支は、認知症を有する患者はマイナスであった。レセプト区分別の算定は、いずれの区分においても認知症の程度による差は認められなかった。看護師のカルテ記載量は、認知症が重度な患者で多くなっていた。認知症を合併した患者の医療には、多くの看護ケアが必要となるが、現行診療報酬制度では適切に評価されていない。